

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 9 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24320124

研究課題名(和文) 復元的手法による東大寺文書研究の高度化 『東大寺文書目録』後の総括・展望

研究課題名(英文) Advancement of research of Documents of Todaiji temple with restoration method

## 研究代表者

遠藤 基郎 (Endo, Motoo)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：40251475

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,000,000円

研究成果の概要(和文)：巨大中世史料群の構造を適確に理解するための方法論をより深く明らかにするための方法の構築と組織論の探究を課題とした。対象となる東大寺文書にあっては、先行する『東大寺文書目録』という成果があり、その後の研究で蓄積された歴史知識を効果的に発信する仕組みを、東京大学史料編纂所のオンラインデータベース上に確立した。また補助工具として有用な各種職員のリストやこれまで利用されてこなかった記録部の解題をWEB上に公開した。これらデータベースとリストは今後の当該分野の基盤となるだろう。さら以上の成果に基づき、史料論的関心をバックボーンとして、寺院組織論の観点から新たな東大寺史の方向性を見いだした。

研究成果の概要(英文)：This project tried to achieve the new method, which is more useful to comprehend the constitution of the enormous historical archives in Medieval Japanese Buddhist temple. We revised "Todaiji monjo mokuroku (The The catalogue of documents of Todaiji temple)". We uploaded accurate detas to online database of Historiographical Institute in The university of Tokyo. We made useful tools for researcher. They are the lists about "Betto" (head administrator) and "Nennyogohi" (annual representative monk), and the bibliographical introduction of "Kirokubu" etc. We published these files at our website as well. We are convinced that any researcher, who are concerned with the documents of Todaiji temple, will be due to use these date-base and lists. Finally, we presented the new perspective of the organization of medieval Todaji temple, utilizing our fruits. We especially thank for JSPS to give us this opportunity.

研究分野：日本史中世史

キーワード：東大寺 データベース 寺院組織 荘園研究 史料学 東大寺文書

## 1. 研究開始当初の背景

東大寺図書館所蔵東大寺文書の成果である『東大寺文書目録』(同朋舎、1979-1984年)が刊行され、30年を迎えようとしている。この間の大きな成果は以下のように整理される。

- (1) 東大寺・東大寺文書の研究：代表的な成果としては、永村眞『中世東大寺の組織と経営』(塙書房、1989)、稲葉伸道『中世寺院の権力構造』(岩波書店、1997)、久野修義『日本中世の寺院と社会』(塙書房、1999)があり、これらが提示した大きな見取り図は学界の共有財産となっている。
- (2) 史料の翻刻：従来の『大日本古文書 家わけ18 東大寺文書』『平安遺文』『鎌倉遺文』のみならず、『静岡県史』『兵庫県史』など自治体史史料集ではそれぞれの地域の東大寺荘園・所職に関わる文書が翻刻されるにいたっている。
- (3) 新たな史料の整理・発掘：独立法人奈良文化財研究所による東大寺図書館所蔵東大寺新修文書(「東大寺所蔵聖教文書の調査研究」科学研究費補助金基盤研究、代表者綾村宏、2005)や、京都大学所蔵の東大寺宝珠院旧蔵文書(「中世寺院における内部集団史料の調査・研究」科学研究費補助金基盤研究、代表者勝山清次、2006)はその顕著な成果である。
- (4) データベース(DB)の出現：『東大寺文書目録』DB(国立歴史民俗博物館)そして東京大学史料編纂所(以下「編纂所」)のユニオンカタログDB(旧古文書目録DB、以下UCDB)・各種フルテキストDBは、検索の利便性によって、新たな知見の発見に大きく寄与することとなった。とりわけ古文書目録DBは、東大寺図書館所蔵文書と、寺外所在分と横断的に扱うことをより簡便とした点で大きな意義がある。
- (5) 未成巻文書の修補事業：国宝化を受けて行われた東大寺図書館所蔵東大寺文書未成巻文書の大規模な修補事業(平成12~21年)が完了した。これまで破損が激しく調査不能であった文書が、新たに調査可能となった。新たな情報を得る環境は大きく整ったのである。
- (6) 史料群構造の解明：研究代表者は、すでに「東大寺文書燈油田大湯屋田関連史料をケースとした巨大中世史料群の構造解析方法の探究」(基盤研究(C)(2008~2010))において、現状の東大寺文書は近世・近代の整理によって大幅な手が加えられていること、具体的には寺内複数保管組織の文書が解体され並べ直されていること、中世東大寺のアーカイブを考えるためには、「出所」に配慮した復元的手法が必要であることなどを確認した。

『東大寺文書目録』刊行後の上記の事態を踏まえると、この間、新たに蓄積された様々

な情報を、整理し直し、全体像を俯瞰し直し、新たな研究基盤を作る段階に来ていることは明らかである。

## 2. 研究の目的

この間4半世紀の学術資源を整備し、学会・社会の共有財産として、広くアクセスできるようにする。

中世東大寺文書を扱う前提となる認識を培うために史料群固有の構造を明らかとすべく、改めて、「出所」の復元を意識しつつ、1点ごとの文書の性格を丹念に明らかにし、同時に全体の構造を見極める。

情報を整理した上で、従来の中世東大寺史の諸見解を再点検し、その不足点・修正すべき点を明らかにして、中世東大寺文書の実証的分析に基づいた、中世東大寺史全体を包摂するような新しい見解を提示する。

これから東大寺史研究がさらに進展するための基盤となる資源や方法を提示する。

中世東大寺文書研究の意義についての理解が、広く国内外の研究者に共有されるようにする。

## 3. 研究の方法

### (1) 新しい情報発信方法としてのUCDBの高度化

東大寺文書未成巻文書(約20000コマ)について、カラーマイクロからのデジタル化を行い、史料編纂所の図書閲覧室端末からUCDBを介して閲覧可能とした。

UCDB上の関連データの整備を行った。東大寺文書未成巻文書全点について、詳細な情報を統一性された入力仕様にてUCDBに登録した。さらに『東大寺文書目録』の内容につき改訂・補訂など全面的な情報更新を実現した。具体的には文書名修正、年月日修正、索引の便宜となる荘園名・件名付与、接続情報の付与、所蔵者番号記述仕様の統一化、写真帳・写本・刊本データの統合などである。これらは、WEB上で利用可能である。

なお分離文書の復元では、863件について接続復元した。復元件数は281件である。さらにより簡便に理解できるようなシステム改修を行った。

### (2) 東大寺文書研究に必要な歴史知識の整備

文書1点ごとの内容明らかにするための「工具」として、組織・役職など人事情報を整備した。対象となるのは、基幹的役職である別当・寺務代・後見・年預五師・諸年預である。これについては、『大日本古文書東大寺文書』編纂の過程で蓄積された歴史知識を活用した。

『東大寺文書目録』やUCDBの搭載情報のみでは、補助となる情報が不足しており、なおその利用が不十分である史料について、基本的な情報を提供した。特に1980~2000年代前半にかけて史料編纂所が調査・撮影をすすめ情報を蓄積した東大寺図書館所蔵「記録

部」「卷子本部」「雑部」について、その歴史知識を活用した。

上記はいずれも WEB 上にデータを公開している。

### (3)新しい史料の蒐集と UCDB 上での統一的資源化

『東大寺文書目録』が対象としたのは東大寺図書館所蔵分のみであるが、中世東大寺関連史料は、これ以外にも寺内・寺外に存在する。UCDB にはそれを表現するための項目が設定されており、かなりの情報が提供されているもののなお万全ではない。すでに史料編纂所で写真帳・写本などで蒐集したものにつき再点検をするとともに、未調査・未撮影のものについては、調査・撮影を実施し、東大寺図書館所蔵分と UCDB 上で統一的に利用できるようにした。

### (4)関係する研究者との対話

研究代表者・分担者・連携研究者のみならず東大寺文書に関する研究者の参加する研究会を開催して、上記各方法で得られた知見をもとに、研究発表および討論を行った。

なお、上記個々の研究者の研究発表は、これまで中世日本史関連研究の蓄積によって確立した方法論（史料解釈・データ比較）によるものであって、特筆すべき新しい方法論が新規に確立した訳ではなく、ここでは割愛する。

## 4. 研究成果

### (1)中世東大寺組織論の再構築に向けて

史料学的な関心をバックボーンとしつつ以下の諸役職・組織についての再検討を行い新たな知見および見通しを得た。

#### 別当

東大寺長官僧である別当については、これまで時期的な変化への関心が不足していることが明らかになりつつある。前述の一覧作成の過程で、別当の房官の定義を改めて考える必要が生じた。院政期と鎌倉時代では質の変化が想定されるという見通しがたつた。すなわち院政期では寺内三綱と別当との融合関係が基本であり、これは寺内による別当の取り込みと評価される。一方鎌倉期以降、両者が完全に分離していく。

#### 惣寺・学侶

学侶については、これまで専論がほぼないというのが実態であった。今回、南北朝末期以降その存在感の増すことが明らかとなった。南北朝末期の14世紀終わり頃から15世紀半ばまで、寺内教学を主に財務（荘園・寺内金融）で支える学侶方の姿がはっきりと見えてきた。大勧進・戒壇院・油倉についての先行研究の成果と総合すると、教学・学侶方、修造・戒壇院という2つの柱でこの時期の組織は理解できる。さらに記録部の解題作業を通して、16世紀には学侶方が寺内経営全般においてその比重をさらに高めていくことが

窺える。

#### 大勧進

大勧進については、その政治的な関係、特に鎌倉幕府との関係がこれまで想定されていた以上に規定的であることが明らかとなった。寺外大勧進が原則である鎌倉後期の大勧進を考察するためには、当然ではあるが寺内史料ではなく、それぞれの大勧進が属する本寺（一般的には律宗寺院）の史料を駆使する必要のあることも明らかとなった。

#### 油倉

油倉は大勧進の寺内拠点であるが、類似の組織として燈油聖があり、両者の整合的理解が学説史上の課題であった。通説では燈油聖油倉がそのまま大勧進油倉に移行するとされていた。関連史料を UCDB 上で整備（無年号文書の年次比定・件名付与）し、時系列での通覧を可能とした結果、両者が併存することなどが明らかとなった。あわせて室町中期には惣寺組織が燈油業務を掌っていることも明らかとなった。

#### 堂衆

堂衆は、法華堂・中門堂からなる。新規調査撮影した宝珠院所蔵文書と近年の京都大学総合博物館所蔵東大寺宝珠院文書とを突き合わせ検討することで、戦国時代の摂津・大和の荘園経営のありようがさらに明瞭となった。それぞれの地域の権力と交渉する東大寺の姿が浮かび上がってきた。

以上については2016年3月4日開催の公開研究会などで発表し、参加者の高い関心をよんだ。

### (2)新しい研究発信方法の確立

『東大寺文書目録』掲載文書全点を UCDB 登録し、データの修正・高度化を行った。

これによって、世界中どこでも、中世東大寺文書についての基礎的データを、これまで以上に便利に利用できるようになった。

また各種刊本（『大日本古文書』『平安遺文』『鎌倉遺文』『三重県史』など各種自治体史）の目録情報との統合がなされたことの意義は大きい。くずし字判読が困難な初学者であっても、東大寺文書を研究するハードルを下げたこと、すなわち研究の裾野を広げることに繋がるからである。

また現在進行中の『大日本古文書東大寺文書』編纂の成果を、逐次このデータベースに反映させる方法が確立した。これまで書籍という形で完結していた史料編纂に、新しい発信形態が付加された。とりわけ東大寺のような巨大史料群にとって、これは有効な方法である。

具体的には分離文書の復元あるいは無年号文書の年号比定でその効果をあげている。今後多くの研究者がこのデジタルイメージを活用することが期待される。

なお代表者遠藤は、高精細デジタル画像のデータベース活用の実践例を公開シンポジウムで報告した。

(3)未活用史料の可能性の提示

中世に限定した記録部などの解題は、141架96件・142架64件・薬師院史料記録部55件、記録部141B(宝珠院記録)26件、雑部16件・卷子本部36件などである。これは原則、16世紀以降のものに限定される。永正年間の三面僧房焼失が大きく影響しているのではないかと考えられる。その中にはこれまで全く活用されていなかった室町時代の記録もあり、現状では未開拓と言ってよい室町時代東大寺史の解明のため、今後の活用が期待される。

このほか、小ぶりの成果であるが、未成巻文書と卷子本部に本来一体となるべき文書が整理されていることも確認された。近代の文書整理の一端を窺わせるものである。

(4)新たに研究資源化された東大寺文書他

東大寺図書館以外の文書の内、新たにUCDBに登録したものとして、京都大学所蔵宝珠院文書・慶應大学文学部古文書室所蔵東大寺文書・京都市歴史資料館所蔵燈心文庫文書・大和文華館所蔵双柏文庫所蔵文書(中村直勝氏蒐集文書)・興風談所寄託文書などがある。

また調査・撮影を実施したものは、東大寺塔頭宝珠院の所蔵する東大寺法華堂伝来文書のうち中世分(約200件弱)また中世東大寺の所領であった周防国衛領の国衛候人伝来文書である上司文書(約500件)などである。

(5)史料集の刊行

『大日本古文書 家わけ第18 東大寺文書之22』では科研の成果を反映し、分離文書の復元、無年号文書の年号比定、関連文書情報掲載など、学界に新たな情報を提供した。

本科研の直接的成果ではないが、分担者小原が共同執筆者である『三重県史資料編 古代・中世』が刊行された。日本中世史研究にとっての原点のひとつである、伊賀国黒田荘を網羅する史料集の完成はひとつの事件と言ってよい。

(6)国内外への東大寺文書研究の意義のアピール

一般市民向け刊行物において東大寺領黒田庄紹介のコラムを執筆することで、東大寺文書の魅力を伝えた。

北米・欧州において、東大寺文書を題材とした学会発表を行った。

最終年度には東京大学史料編纂所において公開研究会を実施。全国の関係する研究者が45名参加し、多数の意見が交わされ充実した会となった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文等〕(計10件)

小嶋 教寛、東大寺兵庫閣の寄進にみえる密教的背景とその影響、蓮花寺佛教研究所紀要、査読無、9、2016、203-236

西田 友広、中世前期の検断と国制、歴史学研究、査読有、937、2015、53-62

小原 嘉記、平安後期の官物と収取機構、日本史研究、査読有、641、2015、22-44

吉川 聡、執金剛神から蔵王権現へ、東大寺の新研究(法蔵館)、査読無、2015、565-593

菊池 大樹、日本中世における宗教的救済言説の生成と流布、歴史学研究、査読有、932、2015、2-14

西尾 知己、随心院蔵『東南院擾乱縁起抄』の翻刻、南都佛教、査読無、99、2015、47-74

森 哲也、定海と琳実、日本歴史、査読有、797、2014、70-78

小原 嘉記、鎌倉初期の東大寺再建と栄西、論集中世東大寺の華嚴世界 ザ・グレイトブッダ・シンポジウム論集、査読無、12、2014、55-69

小原 嘉記、黒田荘故地を歩く、『週刊朝日百科 新発見!日本の歴史16』朝日新聞出版、査読無、2013、26

西田 友広、醍醐寺座主定済と悪党、鎌倉遺文研究、査読有、32、2013、1-27

〔学会等発表〕(計11件)

菊池 大樹、中世東大寺堂家の活動について、本科研グループ・日本古文書学会共催公開研究会、2016/3/4、於東京大学史料編纂所(東京都文京区)

小原 嘉記、鎌倉後期の東大寺大勧進とその周縁 禅律僧の登場、(同上)

畠山 聡、東大寺図書館所蔵記録類の解題的研究、(同上)

西尾 知己、東大寺衆中の室町期的展開、(同上)

遠藤 基郎、中世東大寺の燈油関連組織、日本古文書学会大会、2015/9/13、於就実大学(岡山県岡山市)

遠藤 基郎、実運用となったHi-CAT Plus、東京大学史料編纂所 共同研究拠点と歴史情報シンポジウム、2015/1/24、東京大学(東京都文京区)

森 哲也、東大寺の文書出納と社会、九州史学会大会、2014/12/14、於九州大学(福岡県福岡市)

小原 嘉記、鎌倉初期の東大寺再建と栄西第12回グレイトブッダシンポジウム、2013/11/24、於東大寺総合文化センター(奈良県奈良市)

吉川 聡、日本における古文書の調査と文化財指定(招待講演) インドネシア・西スマトラ州パダンにおける歴史的記録文書等の保存修復のための拠点交流事業主催のジャカルタでのシンポジウム、2013/11/21(インドネシア・ジャ

カルタ)  
遠藤 基郎、東大寺文書研究の現在、  
EAJRS (日本資料専門家欧州協会) 2013  
Paris Conference、2013/9/18、於 BULAC  
図書館 (フランス・パリ)  
遠藤 基郎、東大寺とその荘園 古文書  
にみる大部荘、南カリフォルニア大学国  
際シンポジウム荘園制を再考する：中世  
日本の社会と経済 (International  
Conference 'Reassessing the Shoen  
System : Society and Economy in  
Medieval Japan')、2012/6/5、於南カリ  
フォルニア大学 (アメリカ合州国・ロサ  
ンゼルス)

〔図書〕(計3件)

東京大学史料編纂所編 (主担当遠藤基  
郎)、東京大学出版会、『大日本古文書  
家わけ第18 東大寺文書之22』、2014、  
337

吉川 聡・海原靖子・宇佐美倫太郎・水谷  
友紀・黒岩康博・高田祐一・山田淳平・  
馬場基、編集発行：吉川聡、『東大寺図書  
館所蔵中村純一寄贈文書調査報告書  
平成21年度～平成25年度科学研究費補  
助金(基盤研究(B))「南都における廃仏  
毀釈後の資料動態に関する調査研究」研  
究成果報告書第1冊』、2014、468

吉川聡・遠藤基郎・小原嘉記・山本倫弘・  
坂東俊彦・吉永隆記・谷本啓・富田正弘、  
編集発行：吉川聡、『東大寺図書館所蔵新  
修東大寺文書聖教調査報告書第46函～  
第77函 平成21年度～平成25年度科  
学研究費補助金(基盤研究(B))「南都に  
おける廃仏毀釈後の資料動態に関する  
調査研究」研究成果報告書第2冊』、2014、  
320頁〔産業財産権〕

〔その他〕

ホームページ等

[http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/en  
do/2012-15kaken/kodoka\\_index.html](http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/en<br/>do/2012-15kaken/kodoka_index.html)

東大寺図書館所蔵記録部等解題(抄、中世関連  
史料) ver1.pdf

東大寺別当他一覧表 ver1(20160514).xls

東大寺年預五師他一覧表 ver1(20160514).xls

付録\_近世東大寺諸職一覧.xlsx

6. 研究組織

(1) 研究代表者

遠藤 基郎(ENDO, Motoo)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：40251475

(2) 研究分担者

小原 嘉記(KOHARA, Yoshiki)

中京大学・国際教養学部・准教授

研究者番号：40609202

(3) 連携研究者

吉川 聡(YOSHIKAWA, Satoshi)  
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財  
研究所・文化遺産部歴史研究室・歴史研究  
室長

研究者番号：60321626

菊地 大樹(KIKUCDBHI, Hiroki)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：80272508

西田 友広(NISHITA, Tomohiro)

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号：90376640

(4) 研究協力者

小嶋 教寛(KOJIMIA, Norihiro)

西尾 知己(NISHIO, Tomomi)

畠山 聡(HATAKEYAMA, Satoshi)

三輪 眞嗣(MIWA, Masatsugu)

守田 逸人(MORITA, Hayato)

森 哲也(MORI, Tetsuya)